

プログラム 2-3 「より安全な性行動」


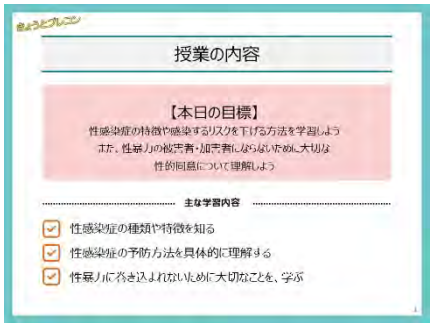
教員用プログラム

1. 各スライドの指導上の留意点

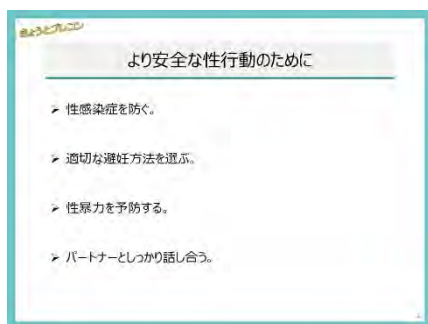
学習目標

性感染症の特徴や感染するリスクを下げる方法を学習しよう

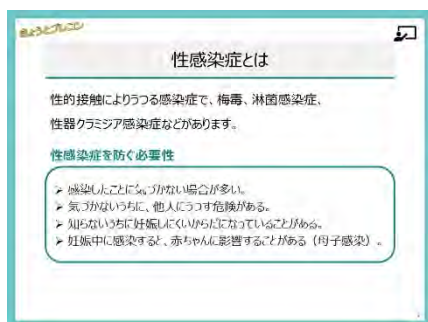
また、性暴力の被害者・加害者にならないために大切な性的同意について理解しよう

段階	授業の展開	指導上の留意点
導入	<p>1. 授業のねらいや全体像を知る</p> <p>・表紙</p>  <p>・スライド 1</p> 	<p>○本時では性行動のリスクについて知り、リスクを避けることを学びます。</p> <p>性行動のリスクは主として以下 3 点があげられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症 ・予期しない妊娠 ・性暴力 <p>本時ではこの中で「性感染症」に焦点を当てて学びます。</p> <p>性感染症については学ぶ機会が少ないことから「恥ずかしい」「遊んでいる人が感染する」といったネガティブなイメージを持っていることがあります。そのため、相談しにくいと考えている生徒がいる可能性もあります。</p> <p>性感染症について理解を深め、予防策を知ることで、困ったときにすぐに相談に行けるよう、本時で理解を深めます。</p> <p>○また、性感染症だけでなく、性交をすると予期しない妊娠や、性暴力のリスクにもなります。これらについても本時で扱います。</p> <p>性的同意についてはプログラム 2-2「妊娠と避妊のしくみ」でも扱っていますが、同意のない性的行為は性暴力に当たることを改めて確認します。</p>
展開	2. 性感染症について知る	○大前提として、性行動をすれば、先ほど挙げた性感染症や予期しない妊娠、性暴力のリスクを伴います。

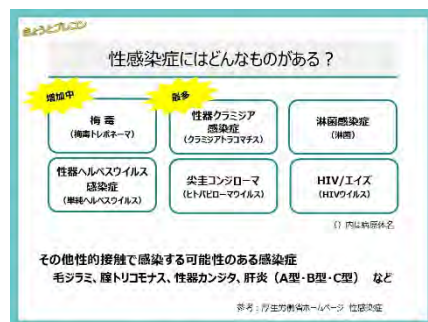
・スライド 2



・スライド 3



・スライド 4



そのためまずは、より安全な性行動のためにはどんなことが必要かを列挙します。

○1つ目として「性感染症」を取り上げます。

性感染症は粘膜同士の接触や、傷口からの侵入により感染します。性器同士のみでなく、口や肛門と性器の接触でも感染の可能性があることを認識します。

●「性感染症」については、授業用動画の「チャプター8 性感染症について知る」(所要時間:約 4 分)も活用しながら、理解を深めましょう。

○性感染症について学習する機会がなく、「恥ずかしい」「遊んでいる人が感染する」といったネガティブなイメージを持っていたり、症状に気づきにくいことで、発見が遅れてしまうケースもあります。

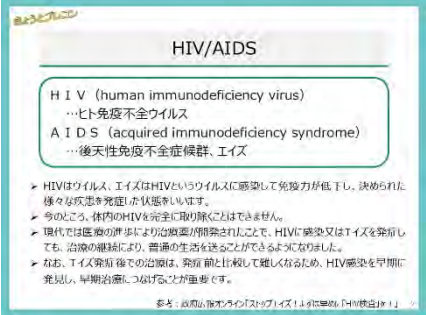
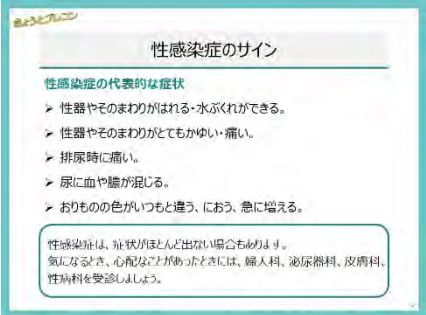
早期に発見し、適切に治療を行うことで、不妊や母子感染のリスクを減らすことができるので、性感染症の理解を深め、適切に対応することの大切さを伝えましょう。

○性感染症には種類があり、特に着目したいのが近年増加傾向にある「梅毒」と、日本での感染者数が最も多い「クラミジア感染症」です。

<梅毒>

「梅毒トレポネーマ」という細菌が原因で発生します。個人差はありますが、約1か月の潜伏期間があり、発疹などの症状が出ることもありますが、無症状のことも多いです。治療をせず放置すると、内臓や神経に異常があらわれる可能性があるため、早期発見と治療が大切です。また、妊娠中に感染すると、胎児にも感染する可能性があります。

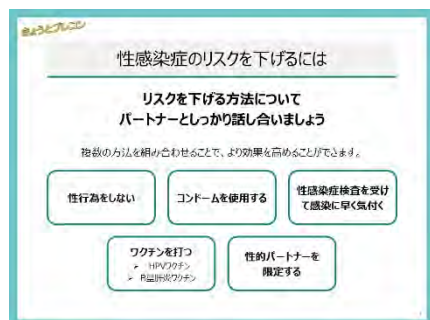
<クラミジア感染症>

		<p>クラミジア・トラコマチスという病原体が原因で発症します。潜伏期間は1～4週間ほどで、女性はおりにものに異常がみられることがあり、男性は排尿時に軽い痛みなどの症状がみられることがあります。</p> <p>また、放置しておくとな男女ともに不妊の原因につながる可能性があるため、早期発見と適切な治療が大切です。</p>
	<p>・スライド 5</p> 	<p>○HIV/AIDS は、患者に対する差別や偏見を伴っていた歴史的経緯があります。中学校でも学習する内容と重なりますが、性感染症の一つとして改めて学習するのが望ましいでしょう。</p> <p><HIV/AIDS></p> <p>「HIV(ヒト免疫不全ウイルス)」による性感染症で、潜伏期間は数年～10数年と言われています。潜伏期間中はほとんど症状が出ないため、気付かないことがほとんどです。HIVによって免疫力が低下し、様々な合併症を引き起こした状態を「AIDS」と言います。</p> <p>他の感染症同様に、粘膜や傷口から感染します。性行為感染、母子感染、注射針の回し打ちなどによって感染すると言われています。</p> <p>○HIV/AIDS の治療は進歩しており、服薬治療により、エイズの発症を抑えられるようになっていきます。感染を早く知り、治療を始めることが大切であることを伝えます。</p>
	<p>・スライド 6</p> 	<p>○スライド6には性感染症の代表的な症状を列挙しています。似たような症状や不安なことがある場合は、相談や検査に行くように勧めましょう。</p>

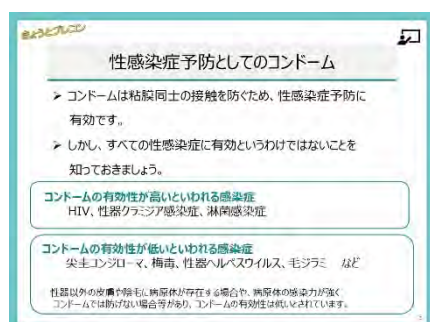
3. 安全な性行動を取るために

①性感染症予防

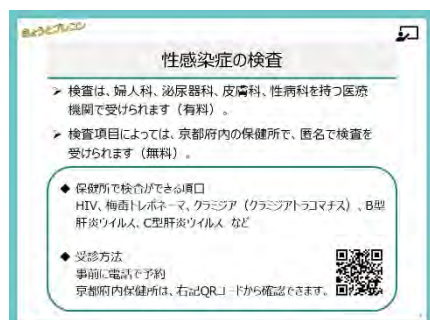
・スライド7



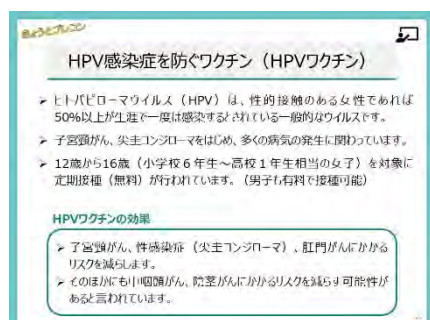
・スライド8



・スライド9



・スライド 10



○ここからは性感染症のリスクを下げるためにどのような行動をとればよいかについて学習します。

○性感染症は感染に気が付きにくいので、放置することにより、不妊や母子感染のリスクを高めます。そのため、適切に予防をすることが大切であると認識させます。

大前提として、性感染症にかからないためには、性行為をしないことが大切であることを伝えましょう。


○「コンドーム」は、性感染症の予防としても有効であることも伝えます。コンドームは、性感染症の主な感染経路である、粘膜同士の接触を防ぐことができるので、性感染症の予防に有効です。

しかし、コンドームが予防にならない性感染症があることも伝えましょう。

○自分の感染の有無を検査で確認することも大切です。京都府・京都市内の保健所では、無料かつ匿名で性感染症の検査を受けることが可能です。どの性感染症も早期発見と治療が大切なため、気になることがあるときは、保健所での検査や医療機関の受診をするように勧めましょう。

○性感染症は、気づかないうちに感染していることがあるので、性交した相手に心配な症状がある場合には、自分に症状がなくても相談や検査に行くことが大切であると確認します。

早期発見と適切な治療を行うことで、その後の症状の悪化や、性感染症に感染した自覚がないままパートナー間で感染させ合ってしまうピンポン感染（パートナー同士で感染を繰り返し、お互いに感染症を卓球の「ピンポン」のように行き来してしまう状況）や、将来の不妊のリスクを防ぐことにもつながります。

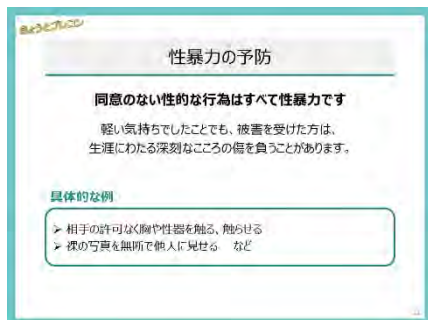
		<p>○また、性感染症の予防策として、「HPV ワクチン」を接種(※)することも有効です。HPV(ヒトパピローマウイルス)を病原体として発症する尖圭コンジローマや子宮頸がんなどを予防することができます。</p> <p>※12～16 歳(小学 6 年生～高校 1 年生相当)の女子は、定期接種(無料)ができます。男性や、期間を過ぎた女性も、定期外接種(有料)としてワクチン接種が可能です。男子も有料で接種可能です。</p>
	<p>4. 安全な性行動を取るために ②予期せぬ妊娠を防ぐ ・スライド 11</p> 	<p>○予期せぬ妊娠を防ぐために、適切な避妊方法を選択することも大切です。</p> <p>※避妊については詳しくはプログラム2-2「妊娠と避妊のしくみ」で学習しますので、参照してください。</p> <p>●「避妊」については、授業用動画の「CHAPTER6 避妊について知る」(所要時間:約4分)も活用しながら、理解を深めましょう。</p> <p>○特に、性感染症予防として紹介した「コンドーム」は男性主体の避妊具です。女性主体で避妊ができる、低用量ピルやいざというときのための緊急避妊薬についても押さえておきましょう。</p>

【参考】日本の主な避妊方法一覧

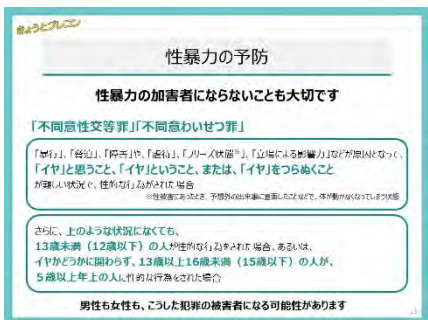
避妊法	入手方法	特徴
男性用コンドーム	ドラッグストアなどで手軽に購入可能 ※女性用コンドーム：日本では入手しづらい	・男性用コンドームは日本で最も使用されている避妊具 ・勃起直後の男性器に装着し、精子が相手の体内に入らないようにする男性主体の避妊法
低用量ピル (経口避妊薬・OC)	医師の診療を受けて、処方箋が必要	・世界でも多く利用されている避妊方法の一つ ・毎日服用することで高い避妊効果が期待できる ・ピルだけでは感染症を防ぐことができない ・現在避妊法としてはピルとコンドームを併用する「二重の保護」が最も安全で信頼性の高い方法だと考えられている
IUD・IUS (子宮内避妊器具)	自分で挿入ができないため、医師に挿入・除去してもらう	・子宮に挿入することで受精卵の着床を防ぐ方法 ・効果が高く、一度挿入すれば5年間効果が持続 ・出産経験のある人にオススメされることが多い (出産経験がない人は装着時に痛みが出ることもあるため) ・FD-1、ミレナがある
パイプカット	手術	・精管を縛って、睾丸から精子が精液の中に送り出されるのを防ぐ避妊手術（費用は5～20万円ほど） ・避妊効果が高い ・射精や性行為への影響はないが、一度すれば、その後の妊娠機能の回復は難しい
卵管結紮	手術	・卵管をしぼることで、卵子と精子の出会いをさまたげ受精できないようにする ・手術の方法には、おなかの皮膚を切る手術とおなかの皮膚を切らずに腔側から行う手術の2通りがあり、いずれも入院が必要

5. 安全な性行動を取るために
③性暴力を防ぐ

・スライド 12



・スライド 13



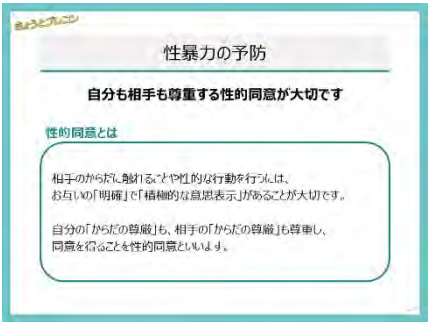
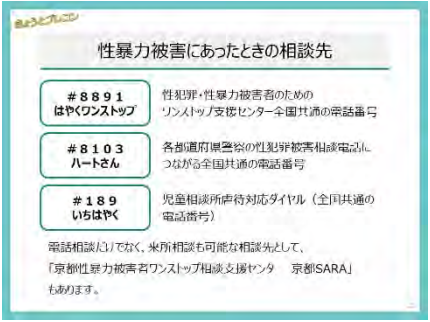
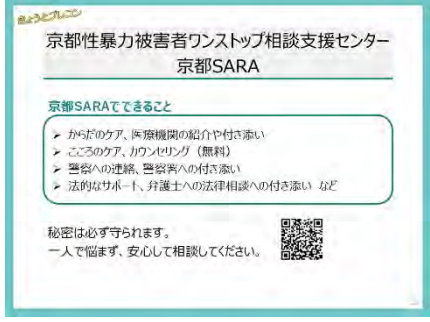
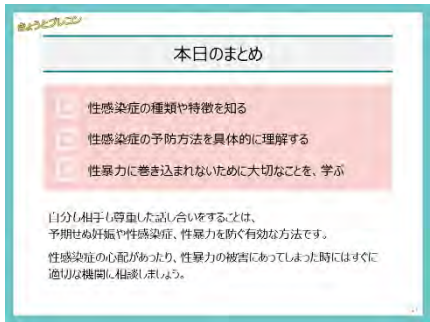
○同意のない性的行為は性暴力に当たるとを改めて確認します。

パートナー間でのデートDVに限らず、いたずら半分で行ったことも性暴力に該当する可能性があります。性暴力によって、被害を受けた人は、こころに深刻な傷を負うこともあります。

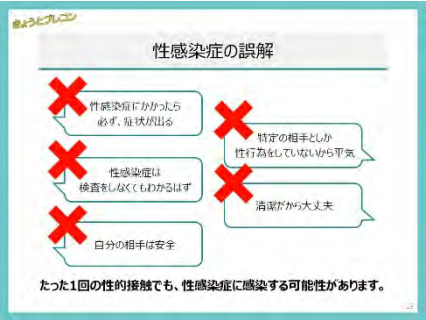

○性暴力は犯罪であり、不同意性交等罪、不同意わいせつ罪などの罪に問われる可能性があることも明示し、改めて「性的同意」の重要性について確認しましょう。

※「同意」や「デートDV」について、詳しくはプログラム2-1「からだの尊厳と暴力」で扱っていますので参照してください。

○性暴力や性感染症のリスクを下げるためには、避妊や性感染症予防について、性交する相手と話し合うことがとても大切です。性交時のコンドームの使用について事前に話

	<p>・スライド 14</p>  <p>・スライド 15</p>  <p>・スライド 16</p> 	<p>し合っておくことは、予期せぬ妊娠や性感染症予防にもつながります。</p> <p>また、感染が心配なときは、保健所での検査について、一緒に話し合ってみるのも良いでしょう。</p> <p>※自他を尊重したコミュニケーションの取り方についてはプログラム 3-1「あなたの健康と対人関係のスキル」で詳しく学習します。</p> <p>○もし、性暴力の被害にあったしまった場合は、専用の相談番号に相談するよう伝えましょう。</p> <p>本人以外からの相談も可能です。</p> <p>また、京都府の相談機関(京都 SARA)についても紹介しましょう。</p> <p>【参考】京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター 京都 SARA https://www.pref.kyoto.jp/kateishien/news/kyotosara.html</p>
<p>まとめ</p>	<p>6. 本時の振り返り</p> <p>・スライド 17</p> 	<p>○自分のからだや相手のからだを尊重した性行動をとるために、どのように行動していくか、一人ひとりが考え、行動することが大切です。</p> <p>また、性感染症や妊娠、性暴力について心配なことは一人で抱えず保健所や医療機関の受診や適切な相談機関につながるなど、周囲を頼る大切さも改めて伝えましょう。</p>

【資料編】

授業の展開	指導上の留意点
<p>・スライド 19</p>  <p>・スライド 20</p> 	<p>○性感染症は、Web サイトや SNS などのメディアを介して、間違った知識が広がっていることがあります。正しい知識を身につけ、適切に予防するように伝えましょう。</p> <p>性感染症の間違った認識の例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症にかかったら必ず、症状が出る ・性感染症は検査をしなくてもわかるはず <ul style="list-style-type: none"> →感染していても無症状であったり、軽い症状のことがあります。そのため、検査をしないと感染しているかわからないことがあります。 ・自分の相手は安全 ・特定の相手としか性行為をしていないから平気 ・清潔だから大丈夫 <ul style="list-style-type: none"> →「自分は大丈夫」「特定の相手のみ」など、性感染症に感染していないことはありません。自分は特定の相手だけと性交していても、相手はそうとは限りません。過去にお付き合いしていた人が性感染症にかかっていた可能性もあります。 <p>○性感染症には、どのような症状があるのか、また予防法、治療法についても確認をしておきましょう。</p>

2. スライドに掲載される主な参考資料

*スライド掲載順に記載。教員用プログラムのみに記載されている項目は(教プロ)と記載。

・スライド4

性感染症 厚生労働省 Web サイト

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/index.html

・スライド5

「ストップエイズ！まずは早めに「HIV 検査」を」政府広報オンライン、2025 年 2 月 19 日(内閣府大臣官房政府広報室)

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201305/2.html>

・スライド15

「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」内閣府男女共同参画局 Web サイト

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html

・スライド15

「各都道府県警察の性犯罪被害相談電話につながる全国共通番号「#8103(ハートさん)」」「犯罪被害者等施策」(警察庁 Web サイト)

<https://www.npa.go.jp/higaisya/seihanzai/seihanzai.html>

・スライド15

「児童相談所虐待対応ダイヤル「189」について」こども家庭庁 Web サイト

<https://www.cfa.go.jp/policies/jidougyakutai/gyakutai-taiou-dial>

・スライド 16

「京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター 京都 SARA」京都府 Web サイト(健康福祉部家庭・青少年支援課)

<https://www.pref.kyoto.jp/kateishien/news/kyotosara.html>

・スライド20

『HIV や梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本』『HIV 感染妊娠と母子感染予防』(令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業、2022 年)

<https://hivboshi.org/manual/>

【参考】主な性感染症一覧

	性感染症	病原体	感染経路	症状	治療法	予防法 ※完全に予防は不可
1	HIV/AIDS (エイズ)	ヒト免疫不全ウイルス (HIVウイルス、HIV)	性行為感染、血液感染、母子感染	感染後、2～4週間後に風邪やインフルのような症状が発症し、自然におさまる。数年後、体力や抵抗力の低下により様々な病気を発症	専門内科医で 飲み薬を処方 ※感染から4週間以内に検査を受けた場合、感染していても陰性となる可能性がある	性行為の際にコンドームを着用 PrEP（あらかじめ内服）による予防も可能
2	 梅毒	梅毒トレポネーマ	性行為感染、血液感染	感染後、1か月後に性器・口・肛門などにできもの、しこり、ただれなどができる。痛みやかゆみはなし。 3か月後に手のひらや足の裏をはじめ全身にじんましんのような赤い発疹が出る。	専門内科医で 飲み薬・注射剤を処方	性行為の際にコンドームを着用
3	性器クラミジア 感染症	クラミジアトラコマチス	性行為感染、血液感染	症状ほとんどなし 女性…おりものの増加・黄色くなる、腹痛 男性…尿道のかゆみ、軽い痛み、膿	専門内科医で 飲み薬を処方	性行為の際にコンドームを着用
4	淋菌感染症	淋菌	性行為感染、血液感染、母子感染	女性…症状ほとんどなし。おりものや尿から膿、卵管炎 男性…尿道のかゆみ・熱感、強い痛み、膿	点滴治療 or 飲み薬を処方	性行為の際にコンドームを着用
5	性器ヘルペス ウイルス感染症	単純ヘルペスウイルス	性行為感染、血液感染、母子感染	性器に水膨れができ、痛みがある。 一度かかり、体調が悪くなると症状が出る ことがある	軽症であれば飲み薬、重症なら点滴	性行為の際にコンドームを着用
6	尖圭コンジローマ	ヒトパピローマウイルス	性行為感染、血液感染、母子感染	性器に鶏のとさかのようなイボが発生。 痛みやかゆみなし	患部に塗る治療法。 塗れない場合には、レーザーや電気メス等で切り取りが必要。	HPVワクチン

参考：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV や梅毒をはじめとする 性感染症のすべてが簡単にわかる本」